



碧南ロータリークラブ週報

第2307回例会 平成18年3月22日(水)

- 会長 岡田 起勇 ● 幹事 亀山 裕一 ● SAA 長田 豊治
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 杉浦昌裕・角谷信二・清澤聡之・岡本明弘

超私の奉仕

2005~2006年度
国際ロータリーのテーマ



● 斉 唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

● 本日のメニュー

和風弁当 とんがり帽子



神谷文子様 神谷 研君

会 長 挨 拶

本日の中日新聞に碧南ロータリークラブ元会員の三田敏雄さんが中部電力株式会社の社長に内定するという記事を見ました。心からお祝い申し上げますと共に今後のご活躍を祈念申し上げます。

さて春分の日を過ぎ、いよいよ春本番となりました。プロゴルフ、サッカーのJリーグは既にオープンしました。プロ野球も今月末にはオープンします。そんな中で昨日行われました、第1回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)決勝で日本が優勝し、王監督率いる日本チームが初代王者になりました。WBCは全世界を4つの地域に分け、それぞれ1次・2次リーグを戦い、決勝トーナメントへ進むわけであり、日本チームは決勝戦でキューバと対戦し10対6で勝ちました。昨日は久しぶりに日本中が沸き、熱気溢れる応援もしましたし、又テレビ観戦もしたと思います。久しぶりに号外も出ました。テレビの瞬間最高視聴率も56%位になったそうです。

ここ数年プロ野球も少し人気落ちていましたので、良いカンフル剤になったのではないかと思います。関係者の話ですと将来は多くの国から参加チームを出してもらい、サッカーのワールドカップのようになれば良いと考えられているそうです。今回は第1回目と言うことで種々改善をしなければならない点がありますが、3年後の第2回を目指してもらいたいと思います。



岡田起勇会長

幹 事 報 告

- ・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- ・35周年記録誌記載分にその後のデータを追加して当クラブの緑化事業記録を作成しました。IT特別委員会で現在作成中のクラブデータベースにこうしたデータを毎年蓄積する必要があります。また平成9年に当時の池田環境保全委員長が作成された当クラブの緑化事業に関する資料を添付しておきました。これも今後毎年環境保全委員会で追補改訂を行う必要があると思います。
- ・碧南高浜防犯協会連合会より春の地域安全【防犯】運動の推進依頼がありました。お手許に配布されていますポスターを職場等で掲示して頂きます様をお願いします。

- ・碧南市友好親善協会（平岩統一郎会長）より会員継続及び新規加入の依頼がありました。4月の例会時に受付で継続・新規加入の手続きを行いますので宜しくご協力下さい。
- ・今週の土曜日に春の家族会が開催されます。次週29日はこの振替えて休会となりますのでお間違いの無い様お願い致します。



亀山裕一幹事



杉浦健次会長エレクト

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 77 名（内出席免除者 14 名）出席者 63 名	
出席対象者 53 / 63 名	出席率 84.13%
欠席者 14 名（病欠者 0 名）	前々回修正出席率 96.88%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 井上 達夫君 35年記録集の話で名を出して頂きました。
 伊藤 正幸君 23年ぶりの友人と楽しく過ごしました。
 堀田 益隆君 三嶋前理事長が市制功労者として、表彰されることになりました。

卓 話

「趣味としての写真撮影」

神谷 研君

趣味としての写真の話をする様にとのお話がありまして、お引き受けしたものの、どの様にお話して良いのか未だに迷っています。今までの趣味の遍歴をお話した後に、時間の許すまでフィルムのスライドをご覧頂くことにしたいと思いますので宜しくお願いします。



写真を始める以前は、観世流の師匠について謡曲と仕舞を十年間程やりました。ゴルフは葵カントリークラブが仮オープンの頃から、永井先生のお誘いで訳も判らずに始めました。それ以来私もゴルフの面白さに熱中し、クレイジーゴルファーと言われる程にゴルフを17、8年間楽しみました。その後医師会長の役職を仰せ付かり、解放されるまでの8年間は殆どゴルフは出来ませんでした。その為かゴルフ熱も薄れて、62、3歳頃にはゴルフから足を洗いました。

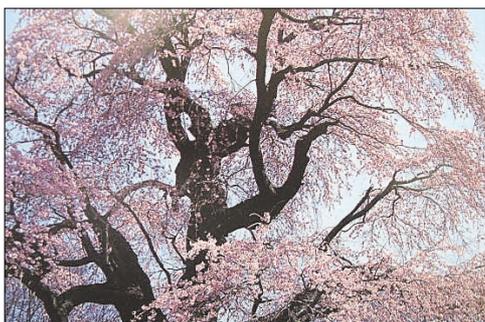
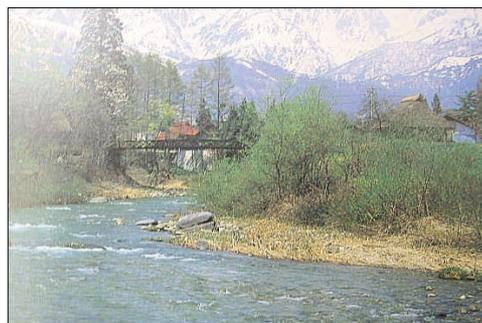
会長職から解放された翌年の2月に真冬の北海道の景色が見たくて、家内と共に北海道旅行をした折に、知人のカメラマンからは是非見てくる様にと薦められた、当時風景写真の第一人者と言われていた、前田真三先生のギャラリー拓真館を訪れました。拓真館に展示された見事な写真の数々に、私は目から鱗が落ちた様な深い感動を受けて、老後の趣味は写真をやろうとその時に決心しました。

老後の趣味は相手が無くマイペースでやれるものかと考えていたので、写真は正に最適だと思いました。しかし年既に65、6歳になっていましたので、年寄りの冷や水だと笑われましたが、何くそと五里霧中で写真を撮り始めたのが始まりでした。以来86歳の現在まで約20年間写真趣味を続けています。

老人にとって悲しい事は、体も心も急速に退化して、何の進歩もなく全て衰えばかりが痛感される様になる。親しい友達や知人は死亡したり、動けなくなって、家族にも先立たれる事もある。そして自らの命も幾許くも無いと思ってくる。喪失の年代と言われる所以であろう。そして物事に対する関心も無くなって、孤独の世界に埋没しがちになります。こんな悲しい状態に成らない為にも、老後の趣味を持つことは非常に意味があります。

私は写真という趣味を持ったお陰で、四季折々の自然の優しさからも厳しさからも、カメラを通してシャッターを切る手が震える程の感動を受けることがあります。この感動や感激が老人の心には大きな活力を与えて呉れるのです。私はこの自然からの感動を貰いたくて、重いカメラと機材を背負って出かけて行くと言っても良いでしょう。

話はこれくらいにして、写真のスライドをご覧頂きます。



老夫婦の写真紀行より

次回例会案内 平成18年4月5日(水)

卓話 - 5秒で痛み軽くなる - 「熟年健康大学」

プレール(株) 代表取締役 後藤克夫氏

平成18年4月12日(水)

卓話 「電力事情のあれこれ」 会員 深澤元喜君